

# 名古屋JCがつくる広報誌 マズモッテ Maz-motte



Vol.2  
2022.12.26

Junior Chamber International NAGOYA 2022



## Contents

- ▶ 2022年度(第72年度)例会報告
- ▶ 2022年度(第72年度)事業報告

# Junior Chamber International NAGOYA 2022

## 2022年度（第72年度）例会

### 1月例会

### 新年賀詞交歓会

名古屋青年会議所の第72年度の第1回目の例会であり、対内外に第72年度の運動方針を発信し、周知させ全会員の意識統一を図ることを目的としました。

また、本年度も新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、ハイブリッド開催となりました。

WEB上の視聴を含めた会員の出席率は8割弱と、例年以上に多くの会員の皆様にご参加をいただけた結果となりました。また、本年度はパートナー企業にできる限り参加いただくことを目的に計画を立てまいりました。結果として7社にとどまつたことは次年度以降に課題が残る形になった一方で、例年の来賓以上の参加率となつたことは実績値として意味ある数値であると考えます。

来賓の大村秀章愛知県知事・河村たかし名古屋市長、経済産業省中部経済産業局長 田中耕太郎氏からはそれぞれメッセージを頂戴しました。そして、第72代高橋雅大理事長より、本年度の運動方針を発表しました。本年度のスローガンを「一人ひとりの情熱で NAGOYA の未来を輝かせよう！」とし、このスローガンのもと、明るい豊かな社会の実現に向けてスタートしました。

理事長所信の運動方針に93.5%が理解を示したことは、目的である想いの共有と盤石なパートナーシップ構築に近づけることができました。



### 2月例会

### SDGs 経営フォーラム

本例会の目的は、中小企業の経営者がSDGs経営を実践する必要性を理解し、ビジネスにおける環境配慮へのヒントを得るきっかけとすることでした。

SDGsアワードを受賞した大川印刷 代表取締役社長 大川哲郎氏とSDGs芸人の次長課長 河本準一氏というSDGsへ真っ直ぐに取り組む2人の講師に決定したことと、参加者が楽しく、分かりやすくSDGs経営を学ぶことができることを目指して例会の内容を構築していました。

各講師と綿密な打合せを行い、何度もシナリオをつくり直し、1時間35分という限られた時間で内容の濃い例会を構築するために準備をしました。事後アンケートからは、ほぼすべての参加者がSDGs経営の必要性を理解し、ビジネスにおける環境配慮へのヒントを得ると共に、SDGs実践意欲を高めることができたという回答を得ることができましたが、「もっと聞きたかった。」「短かった。」というご意見をいただいたので、

2時間の例会設営にした方が、より多くのことを伝えることができたのではないかと感じています。

対外への発信や日本青年会議所、愛知ブロックへの告知も積極的に行動し、多くの青年会議所会員にご協力いただいたおかげで目標の人数を超える人数を動員することができました。



### 3月例会

### 世界に誇れるまちNAGOYAを目指して

3月例会「世界に誇れるまちNAGOYAを目指して」は、観光都市とは何か、名古屋のまちには何が必要なのか、そのようなことを参加者に考えていただき、その上で名古屋の魅力を再認識していただくことで、名古屋の魅力発信意欲を向上していただく契機となるために開催しました。名古屋は魅力のないまち、日本国内主要都市の中でも観光という観点からはとても低い評価となっているのが現状です。名古屋城はじめとする数々の観光資源がありながらも、市民にとってその観光資源の魅力を認識しておらず、市外の人に「名古屋はここが良い」とお勧めできないという現実がありました。

市民は名古屋の良いところを、住みやすいまち、東京や大阪へのアクセスが良い、名古屋めしなどの魅力を感じています。そこで、現状ある観光資源に加えて、ジブリパーク開園、リニア開通、アジア競技大会開催など

を機に、名駅から栄をつなぐ久屋大通パークを中心とした観光開発、外資系ホテルの誘致など様々な計画がされています。まさにこのタイミングで名古屋青年会議所として観光都市をテーマに例会を開催できたことは、とても有意義であったと感じています。一方で、これらの名古屋の可能性の高さはあるものの、市民一人ひとりがそれを認識しなければ意味がないとも感じました。名古屋には良い観光地がある。ビジネスや経由地で名古屋に来たついでにここで遊べる。ご飯はこれが美味しい。このルートで観光するのが良い。このようにお勧めできる魅力は様々ありますから、発信がなければ観光都市名古屋としては確立できないのではないかと考え、本例会の目的を設定しました。

格式高く歴史ある名古屋能楽堂での開催できたことは、講演をいたいた登壇者の方々からは「このような場所で出演ができる良い経験ができ

## 2022年度(第72年度)例会

た」とお声をいただき、名古屋の伝統と歴史を感じていただけたのではと思います。

第1部で名古屋の今後の可能性を対談形式で発信し、第2部で観光のための課題とそれに必要な部分を講演していただき、第3部では様々な視点からの名古屋の魅力を発信していただく。その様な構成で開催しました。その結果、参加いただいた皆様に観光都市名古屋の可能性とその魅力を感じていただけたと確信しております。

名古屋が観光都市となるためには、行政が施設などのハード面を整え、民間企業が観光の重要性とその可能性を感じることで、市外からの来訪者に対しての準備と対応をし、市民が名古屋を好きになり、自ら周りの人にお勧めをする。このように市全体が観光都市として共通意識をもつことで、名古屋の力がさらに飛躍し、観光都市としての認知度が高まります。本例会を機に、これらの思いが高まり、名古屋を好きになつていただける契機となることを願います。



### 4月例会

### 『国際ビジネスを推進するフォーラム～WORLD TRIGGER そして世界へ～』

4月例会「国際ビジネスを推進する例会」では少子高齢化社会の影響により日本国内の市場が縮小されていくことが予測されており、国際ビジネスの重要性が高まってきていることを伝えつつ、国際ビジネスの必要性、可能性を伝えるために開催させていただきました。今回の4月例会は冒頭で衆議院議員の河野太郎先生から国際ビジネスの重要性を含めたビデオメッセージを流すことができました。国内・国外へのターゲットの違いで得た結果をA B CとB T Sの事例を挙げ、分かりやすく話をしていただきました。河野太郎先生のお言葉はまだ国際ビジネスを展開していない多くの企業にとって有意義な時間となりました。

その後、フルーツ大福弁才天の社長である大野氏から国際ビジネスに挑戦する気持ちを講演していただきました。これから国際ビジネスに挑戦しようとしている方からのリアルタイムなお話しをしていただいたことで、例会に参加していただいた方々により分かりやすく、共感を得る内容であると感じました。

ディスカッションでは焼肉道場田村の田村氏、甘強酒造株式会社の山田氏とJCIマニラのブライアン サントス氏をオンラインでつなげました。国際ビジネスを推進する例会は固いイメージがあったためお笑い芸人の田村氏が楽しく笑いを交えてディスカッションをしていただき楽しさのあるディスカッションとなりました。サントス氏も現時点でのマニラから見た日本のイメージや実際にマニラで行われている

SNSの活用や、国際ビジネスのイメージを伝えてもらいました。またスマートフォンのアプリを活用し、翻訳をした結果、国際ビジネスの不安要素である「言葉の壁」に対してもハードルを下げる効果があつたと感じています。

行政の方のお話の中では、国際ビジネスを展開しなければ今後の日本の企業は倒産、又は海外の企業に買収されてしまう可能性があります。日本人の危機意識が低いこと、国際ビジネスにチャレンジする意識が低いことなどを危惧していました。今回の例会を通じて、海外も視野に入れた10年・20年後の未来を踏まえビジネスを考えなければいけないことが伝わったと感じました。



### 5月例会

### DXを推進する例会～今日から始めよう！誰でも簡単DX～

本例会は、昨今の人口減少・高齢化による労働人口不足という社会課題を前にして、DXの推進がその課題の解決策となる可能性がある一方で、日本の中小企業においてはデジタル技術への理解が未だ不足しているという問題を背景として、企業がより良いビジネスモデルを構築するための第一歩として、デジタル技術への抵抗感をなくし、少しでも理解を進めることを目的としていました。

例会の構築に当たっては、会社の業種・業態や会社での立場も様々である中で、参加者が自身の問題と認識できるようにするという意識から、講師・パネリストの選定を入念に検討しました。特に、DX・デジタル技術というテーマの特性上、ともすれば、「自分の会社・業種には関係ない」「自分の会社の規模では不可能だ」「役員や専門部署が考える問題であって一従業員の自分には関係ない」などと先入観をもつてしまいがちであるため、そのような先入観をなくす必要がありました。そのため、基調講演では、ゼロからデジタル技術についての学び直しを行ったうまい子氏を講師とし、また、パネルディスカッションでは、いとうまい子氏に加えて、IT関連企業だけでなく製造業・土業といった幅広い業種、かつ、会社規模や会社での立場も様々なパネリストの方をお招きいたしました。

このような点から、パネルディスカッションは、まさに、参加者全員がDXの推進やデジタル技術の導入を自身の問題として捉えるためのきっかけとなる内容となつたのではないかと自負しております。

また、DXの推進というテーマから、本例会では、当初からオンライン開催を前提とした計画にしたことも特徴のひとつとなります。オンライン会場としてバーチャル会場を使用しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた現代の社会において、開催会場となったバ

ーチャル会場自体を新たなオフィスの形として提示することができたのではないかと思います。

例会当日・事後のアーカイブ配信については、対内・対外いずれの視聴者数も目標を達成しており、委員会メンバーを含む名古屋青年会議所会員、そして、一般市民の方々にも十分に本例会の伝えるべきメッセージが伝わったのではないかと思います。



## 6月例会 「シビックプライドを高めるフォーラム」

シビックプライドとは何か、名古屋のまちに誇りをもつために何が必要なのか、そのようなことを参加者に考えていただき、その上で名古屋の魅力と誇りを再認識していただくことで、シビックプライドを向上していただく契機となるために開催しました。

2016年に名古屋市が実施した「都市ブランドイメージ調査」においての、シビックプライドとは「愛着度」、「誇り度」、「推奨度」の3要素で構成されると定義し、この3つの各々について、名古屋市と政令市(全8都市)で調査、比較し、名古屋市の結果は、愛着度で8都市中7番目、誇り度で6番目、推奨度で8位だったこともあり、「名古屋のシビックプライド=最下位」ということですが、各要素とも低位であったことが、この調査結果で分かっています。私たちが考えるシビックプライドとは、このまち名古屋が好きで仕方がない。自分自身が生まれ育ったまちに愛着を抱き、地域を良いまちにするべく当事者意識をもち、自分自身が関わり、行動することで、自負心が高まることがあります。名古屋は魅力のないまち、日本国内主要都市の中でも観光という観点からはとても低い評価となっているのが現状です。各地域には誇るべき多くの魅力や誇りがありながらも、市民にとってその魅力や誇りを認識しておらず、市外の人には「名古屋はここが良い」とお勧めできないという現実がありました。

市民は名古屋の良いところを、住みやすいまち、アクセスが良い、歴史、三英傑、名古屋めしなどの魅力は多く感じています。今年の秋にはジブリパーク開園や、2027年リニア開通、アジア競技大会開催、栄エリアではコンラッドホテルの建設がスタートし、観光を中心とした様々な計画がされております。また、名古屋市内の各地域にはまだまだ知られる魅力と誇りが詰まった行事も多くあります。そこで、本例会では、日曜日開催に設定し、名古屋の中心地かつ、多くの市民が行き交うオアシス21を開催場所に選定しました。新型コロナウイルス感染症がまだ比較的落ち着いていたこともあり、シビックプライド高めることをテーマに例会を開催できることは、とても有意義かつ、多くの市民に対して楽しんでいただけたと感じています。シビックプライドの重要性、また名古屋の誇るべき魅力と文化を再認識していただくために開催できました。一方で、名古屋の知られるローカルフード「たません」にフォーカスをあて、たませんグランプリを開催させていただきました。

例会当日は、お昼前よりサブイベントを開催させていただき、会場でもあるオアシス21は、老若男女問わず、多くの市民が日曜日もあり、足を運

んでいただき、サブイベントに参加いただけたのではないかと思います。基調講・パネルディスカッションでは、講師より、現状の名古屋の課題や、他県との比較を基に名古屋を語っていただき、他県より名古屋は多く、語りつくせないほどの誇れる観光地や魅力、歴史と伝統をもつまちであることを再認識できたのではないかと思います。

第1部で名古屋市民がシビックプライドを高めるための重要性について講演をいただき、第2部では、名古屋の魅力の再認識と発見を講演していただき、開催しました。その結果、参加いただいた皆様にシビックプライドの重要性と、名古屋の知られる文化と誇り、また未来の名古屋の状況などを感じていただけたと確信しております。

市民のシビックプライドを向上させるためには、一人ひとりがまちに対してもっと興味をもち、参画する意識を醸成し、市民が名古屋を好きになり、自ら周りの人にお勧めをする。このようにまち全体が名古屋プライドをもち愛する共通意識をもつことで、各地域に住む市民の力がさらに飛躍し、名古屋に行きたい、住みたいと、シビックプライドが高まります。本例会を機に、これらの思いが高まり、名古屋を今以上に好きになっていただける契機となりました。



## 1月例会 スポーツを通して国際交流を推進する例会～ENJOY INTERNATIONAL EXCHANGE OF SPORTS～

グローバル社会が進展し、世界各国の協調関係は年々強く求められるようになりました。しかし、歴史・政治的背景、国民性や言語の違いから先入観、誤解が生じています。本例会は、様々な障壁を超えるスポーツ交流により、国際交流を推進するきっかけをつくることを目的として開催しました。例会の構築にあたっては、愛知県アジア競技大会推進課、名古屋市アジア競技大会推進室、アジア競技大会組織委員会と連携を取り、アジアのスポーツの祭典であるアジア競技大会という国際交流が大きく進展するきっかけを最大限利用し、国際交流を推進することも念頭に置き、例会を構築いたしました。

また、国際交流を推進するという難しい課題を、市民が簡単に感じられるよう経験談や歌、スポーツを通じて難しく感じることがないように工夫をしました。第1部ではスポーツ交流のイメージをつくり本例会の関心を高めるためにオープニングアクトとしてケージボールのサッカーパフォーマンスを実施しました。

第2部では、ナオト・インティライミ氏にはライブ／トークショーとして、「世界一蹴の旅」で得た経験を歌とトークで話していただきました。企画段階からゲストはナオト・インティライミ氏しかいないと当初から強くこだわりがありました。リアルタイムで2500名程の方が見てくくれていたと思うと選定して間違ひなかったと思います。

また、場面転換で実施しましたイロハサクラと名古屋外国語大学チアリーディング部のコラボレーションは、名古屋青年会議所が橋渡しをして活動地域の違うチームが1つになり、会場を盛大に盛り上げていただいたことで、国が違ってもスポーツを通せば心と心でつながる国際交流ができるということを参加者に伝えられたと確信しています。

第3部では元アジア競技大会出場者とアジア競技大会組織委員会と一緒にやることで、市民がよりアジア競技大会を身近に感じていただけたと思います。

4年後に開催される第20回愛知・名古屋アジア競技大会では名古屋に多くの国の人々が集まることになります。この機会に、これまでにない楽しい大きな人の輪が名古屋市いっぱいに広がってくれれば幸いです。



## 日月例会 選挙例会

8月例会理事候補者選出選挙立会演説会を開催いたしました。次年度の理事へと立候補した候補者たちは、委員会メンバーと共に、理事として相応しい考え方や立ち振る舞いを1か月の選挙期間で身につけました。理事になりたいと立候補した候補者は、全3回のコーカス、そして本例会に臨みました。各候補者が、選挙期間を通じて導き出した最後の想いを伝えるべく、渾身のスピーチを繰り広げました。全候補者の演説後には、選挙管理委員長桑野佑介君の講評に続き、第72代理事長高橋雅大君から候補者に対するねぎらいの言葉をいただき、約1か月の選挙期間を締めくくりました。名古屋青年会議所の未来をすべての会員が真剣に考える良い機会となりました。



## 9月例会 災害対策フェスタ～NAGOYA のまちを守るために～

災害に対する危機意識を持っていただくためのフォーラムを開催しました。基調講演では一般社団法人気仙沼青年会議所、熊谷尚哉理事長をお招きし、東日本大震災の被災経験を基に災害の危険性や必要な災害対策についてお話をいただきました。また、6月10日(金)に締結されました名古屋市とのボランティアセンター支援に関する協定の締結お披露目式も実施しました。この協定は被災者支援の研修や訓練を行い、災害発生時は被災者を対象とするボランティア活動への協力や備品・資材の提供を行うものになります。本例会に多くの市民、そして企業の皆様にお越しいただき、企業が災害対策を積極的に実施していくことが大切であると、訴えかけることができました。



## 10月例会 女性活躍を推進する例会～話し合おう大切な家族の形～

本例会では、メインフォーラムとブース出展として参加体験型ブースと団体ブースを実施しました。参加体験型ブースでは、家事・育児の大変さや楽しさを体験いただき、普段家事・育児をしていない方にも簡単に楽しく家事・育児を体験いただくことで、今後の家事・育児の参考にしていただき家事・育児に参加しやすい環境をつくると共に話し合いのきっかけとしていただき、各家庭での最適解を導き出す契機となりました。団体ブースでは、各団体の活動内容を発信し、各団体の活動内容を聞いて女性が活躍できる幅を知っていただくことで、女性活躍推進の理解を深めていただきました。また、パートナーと共に現在抱えている悩みを相談することで話し合いのきっかけとしていただき、各家庭での最適解を導き出す契機としました。

メインフォーラムは3部構成とし、第1部の基調講演では、男性の家事育児参画の重要性を理解していただくために特定非営利活動法人Tadaima!代表理事三木智有氏に男性の家事・育児参画の現状や課題について講演いただきました。

第2部でのパネルディスカッションでは男性の家事・育児参画の楽しさや大変さを知っていただくために家事・育児参画の楽しさや大変さについて各パネリストの知見や見解を基に議論を深めました。

第3部のクロージングでは、例会内容の認識を深め、男性の家事・育児参画推進に対する意識変革を促すため特定非営利活動法人Tadaima!代表理事の三木智有氏に総括をしていただきました。

イオンモール名古屋茶屋内に専門店があり屋外イベントでの実績もあるYogibioに依頼をして「Yogibio Max(ヨギボーマックス)

ス)」を数個提供いただきメインフォーラム会場に設置して家族でリラックスして座って観覧できるスペースを設置し、家族でくつろげるようになりました。本例会を通して男性の家事・育児参画に対する意識変革を促し、名古屋市の推進する「名古屋市男女平等参画基本計画2025」「目標5 家庭・地域における男女平等参画の促進」で成果指針としている平日1時間以上家事を行う有職男性の割合の目標値達成につなげていきました。また、各家庭で最適な形は違うため、本例会を通して家事・育児についての重要性や必要性を理解した上でパートナー同士理想の家庭のあり方をしっかりと話し合いをして最適解を導き出す契機となりました。

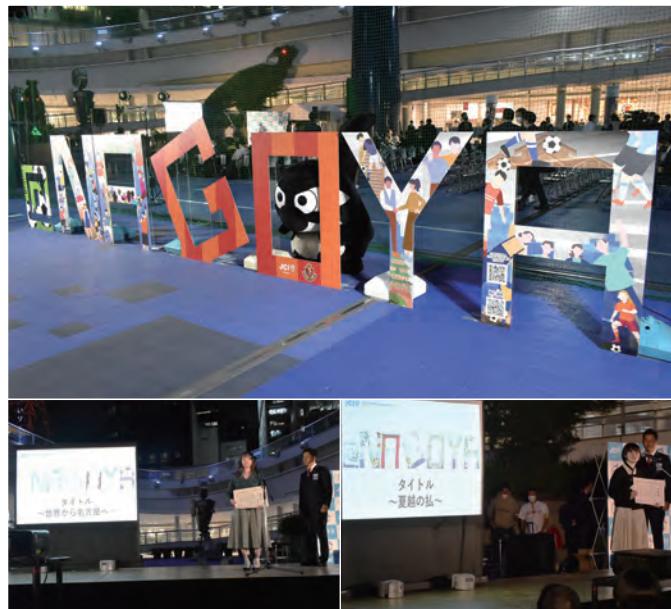


## 11月例会 オアシス21で11月フォーラムを開催しました。

会場内にはアットナゴヤモニュメントデコレーション事業で集まつた、名古屋モード学園の学生たちの素晴らしいデザインを展示し、名古屋青年会議所とアットナゴヤモニュメントのつながりを強めることができました。

またトークセッションでは、名古屋グランパスの中村直志氏と名古屋モード学園の学生たちにご登壇いただきました。市民のニーズに応えること、そしてパートナーと共にプロジェクトを推進していくことが名古屋青年会議所のブランドであるということを発信させていただきました。

名古屋青年会議所のブランドは今後も日々の活動によって高まっていきます。パートナーである名古屋の市民や企業の皆様のご協力があつてこそ、より良いプロジェクトやフォーラムを行えることを忘れず、我々は今後も名古屋のまちの課題解決に取り組んでまいります。



## 12月例会

12月6日(火)、東急ホテルにて12月例会を開催しました。

第1部の式典の部では、2022年度(第72年度)の軌跡映像を通して本年度の運動を振り返り、その功績を会員全員で讃え合うと共に、運動の成果を共有しました。

また、第72代理事長 高橋雅大君より1年間の活動報告を行い、72年間の長きにわたって受け継がれてきた名古屋青年会議所の歴史を次年度へ引き継ぐためにプレジデンシャルリースの伝承を行いました。褒賞の部では、第72年度の運動発信に最も貢献した会員や委員会を表彰しました。

MVJ(Most Valuable Jaycee)には世界に羽ばたく人材育成委員会の荒川一喜君、最優秀出向賞は総務委員会の社本崇志君、最優秀新人賞には新モビリティ委員会の青木宏樹君が選ばれました。最優秀委員会賞にはDX推進委員会、理事長特別賞には国際スポーツ交流推進委員会、最優秀事業賞には女性活躍推進委員会、最優秀例会賞には国際ビジネス推進委員会、最優秀パートナーシップ賞には世界に羽ばたく人材育成委員会、最優秀拡大賞にはJCプランディング委員会、



最優秀華麗賞には新モビリティ創造委員会が選ばれました。

懇親の部の卒業式では、本年度名古屋青年会議所を卒業する会員が登壇し、これまでのJC生活の思い出を語りました。

第73年度理事長候補者の竹腰正見君から送辞が述べられ、第72年度監事の鈴木信輝君から答辞が述べされました。

卒業生から紹がれる運動や想いをしっかりと受け止め、第73年度は大切な人を幸せにするためさらなる運動を興して参ります。



### 名古屋の未来予想図を提言する事業

2月から9月まで間で各委員会と共に計14回に渡りビジョン会議を開催し、様々な名古屋の課題を抽出しました。課題解決のために各委員会が展開した運動の成果を「名古屋の未来予想図」という提言書としてまとめました。各委員会が様々なパートナーや有識者、市民と共に描いたまちのビジョン、まちに対しての想いを名古屋市総務局企画部に提出し、受け取っていただきました。



### 組織内交流を活性化する事業 ジェイコレNAGOYA

本事業は会員同士の出会いや交流の機会が減少している背景から交流の機会を増やし、絆を深めることを目的としてファッションショーを実施いたしました。

マーマレーション株式会社と愛知文化服装専門学校にご協力をいただきました。

コーディネートお披露目会の際、学生と共にランウェイを歩く姿が見え学生と会員との新たなつながりを創出することができました。後日、愛知文化服装専門の先生より会社の面接・訪問をすることが決まった学生がいると聞くことができました。



### スポーツを通して国際交流を推進する事業 ～マラソンEXPO～

名古屋ウィメンズマラソンのリモートマラソンを軸に実施しました。海外ランナーとのコネクションをつくりに姉妹JCIや名古屋青年会議所会員に協力を仰ぎながらランナー募集をしました。参加した市民同士の交流機会となった点では目的を達せられたと考えます。また、名古屋ウィメンズマラソンと同時に開催されたマラソンEXPOにて愛知・名古屋第20回アジア競技大会のPRを愛知県、名古屋市と共に実施いたしました。



### 防災ラジオ

3月24日(木)、災害対策委員会の事業である防災ラジオに、当青年会議所の理事長の高橋が出演しました。

「人災にならないために」をテーマに、名古屋青年会議所として取り組む災害対策についてお話しをしております。

また、株式会社若鯨家における防災対策のお話や、SDGsの活動として取り組まれている「サステナブルえびせんべい」についてもお話しさせていただきました。



### 健康経営を推進する事業

健康経営優良法人の取得のために1年間、健康経営事業を行ってきました。

まずは健康経営とは何か理解を深めていただくことから始め、パートナー企業の皆様にもご協力いただき参加企業に対して講義や個別でのサポートを行いました。

その結果、健康経営優良法人の申請数は114社の申請を行うことができました。



## パーソナルモビリティ体験会

「パーソナルモビリティ体験会」を開催しました。Future株式会社 CEO 井原慶子氏を講師としてお招きし、名古屋のまちとパーソナルモビリティについてご講演いただきました。また、Future株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社ブレイズに最先端のパーソナルモビリティをご提供いただき、ご参加いただいた皆様に試乗・体験していただきました。



## 守山みらい学校 ビジョン検討会

「守山みらい学校 ビジョン検討会」を開催しました。より良い守山区をつくることをゴールに、守山区にゆかりのある市民が集まり名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野 雅夫氏を講師にNPO法人まちの縁側育み隊 代表理事 名畠 恵氏をコーディネーターにお迎えし、ワークショップを行いました。守山区の現在のプラス面とマイナス面を洗い出し、プロジェクト案を作成しました。



## アットナゴヤモニュメント デコレーション事業

オアシス21にあるアットナゴヤモニュメントを名古屋モード学園の学生と協働して合計6回のデコレーションを実施しました。季節・時季に合わせたテーマによるデコレーションを3回、名古屋市の社会課題をテーマとしたデコレーションを3回実施しました。



## シビックプライドを高める事業

シビックプライドを高める事業を、中村区にある太閤秀吉生誕地、豊國神社にて開催しました。本年も太閤祭は神事のみとなっていましたが、太閤祭前夜祭、普段奉賛会、地域の代表者のみしか参加できない神事への参加もさせていただきました。また、多くの学生さんには瓢箪へ願いを書いていただき、一緒に奉納させていただきました。一人ひとりの願いを込めて瓢箪に書き、奉納後には、本殿の隣にある目立つ場所へ飾らせていただきました。



## ムスリムフレンドリーフェスティバル in 円頓寺商店街

6月18日、円頓寺商店街内の飲食店の皆様にご協力いただき、ムスリム対応メニューを食べ歩き形式で販売しました。ムスリム対応メニューには名古屋市立若宮商業高校の生徒の皆様に作成いただいたムスリムフレンドリーシールを貼り、対応メニューであることを明確にすることで安心して食べ歩きを楽しんでいただき、Prayer Room(礼拝室)も用意し、安心してご参加いただけた環境を整え、宗教的に参加しづらかった方にも多数ご参加いただきました。

ご参加いただいた皆様及び商店街飲食店の皆様双方より、引き続きこのイベントを継続していただきたいというお声をいただきました。

また若宮商業高校の生徒の皆様を含め、多数の方々にとって国際交流の機会の創出につながったことを嬉しく思います。

本事業を通して食の多様性を考え、アフターコロナを見据えて外国人観光客の受入体制を見直すことで、名古屋市が観光都市NAGOYAになるきっかけとなることを願います。



## 第38回わんぱく相撲 名古屋大会予選(区長杯)開催報告

第38回わんぱく相撲名古屋大会が3年ぶりに名古屋市全区での予選大会区長杯から、名古屋市決勝大会市長杯まで開催されました。

総勢約800人の小学生が勇気と礼節と感謝の心をもって、真剣に戦った大会です！

10月29日、30日の2日間には両国国技館にて、小学校4年生～6年生のわんぱく相撲男子全国大会が開催されました。

名古屋からは3名が出場し、3名ともに大いに健闘いたしました。中でも4年生の藤垣君はベスト8まで進出し、小結入賞となる大活躍でした。

子供たちが笑い、泣きながらも勇気をもって挑戦する姿やここまで共に勝ち上ってきた子供たちが名古屋の仲間との絆を育む様子は、とても心動く素敵な事業となりました。



## 国際ビジネスを実践する事業

本事業は販売支援コースと高度外国人雇用コースを設置し、参加者の課題に対して的確に対応できるよう販売支援コース全6回、高度外国人雇用コース計5回の事業実施をしました。

国際ビジネスを実践できるように国際ビジネスのプロである商社を5社パートナー企業として参加者とパートナー商社を国際ビジネス推進委員会がハブとなりマッチングを行いました。

実際に人と人が会うこと、直接商品を見てもらうこと、そして現地でのパートナー、時間やコストの捻出まで考えて挑戦できる企業が国際ビジネスを実現できるということでした。

この事業をきっかけに商社と企業が今後も関係が続いていく実績をつくることができました。



## DXを推進する事業 ～知ろうDX！実践しようDX～

DX導入に向けたセミナー・ディスカッションの実施を計2回行いました。

DXのイメージをより身近にそして誰でも参加をしやすいよう、間口を広げつつ、内容は専門性をもち誰もが理解できるような分かりやすい事業を実施しました。

また、愛知県との話し合いを進め、実際に、DX推進に向けた自治体の取り組みを理解するために、愛知県が主催する「愛知産業DX推進コンソーシアム」へ出席し、事業のイメージを掴み、後援をしていただきました。

また、西日本電信電話株式会社と連携協定を結び、全面協力のもとDX推進を進めてまいりました。



## 女性活躍を推進する事業

カジーグジーゲームを実施し、テーマは気軽にゲーム感覚で家事育児について知りたいという思いで名古屋版を作成いたしました。今年度愛知県にはこのカジーグジーゲームを絶賛していただきまして、次年度以降も引き継いで引き続き行政や教育機関にアプローチしていただけたと思います。



## 最先端自動車運転支援技術体験会実施

「最先端自動車運転支援技術体験会」を開催しました。名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所の森川高行教授を講師としてお招きし、自動運転支援技術についてご講演いただきました。また、ご参加いただいた皆様に、国内初の自動運転向け運行管理システムを搭載した自動運転車両「ゆっくりミニバス」の試乗体験を行った他、最先端のパーソナルモビリティの試乗・体験していただきました。



## 3G—Project

複数のSTEPにて国際交流を実施しました。参加した学生は、米国、並びにカナダの領事館関係者より海外の社会情勢、並びに異文化について現実を知り、向き合うことの重要性に気づいたと思います。また、在名古屋米国領事館の首席領事との対面においては、学生が積極的に交流を深めており、学生がグローバル社会で生き残っていくためには、どのように海外の方と交流をして情報収集を行うべきか。という姿勢の表れでした。国内研修では、愛岐処分場のごみ問題、並びに碧南火力発電所のエネルギー事情について触れ、国内の社会課題を知りました。それを踏まえた上でフィリピンのマニラに渡航し、スマーキーマウンテンのごみ問題、並びにマクタンの地熱発電所のエネルギー事情を対比しました。同じ社会問題ではありますが、各国で深刻さには差があることを学びました。国内外を対比するにあたって、今回この事業を通して原体験ができたことは貴重な経験となりました。この先、社会問題が悪化する前に、自分たちが主体となって改善策を探し、そして運動を起こすことが次世代を担う若者たちには必要であることを参加者全員に意識づけすることができました。



## 会員益を探究する事業

なごのキャンパス企画運営プロデューサー栗生万琴氏をお招きし、「社業課題抽出セミナー」を開催しました。各委員会より3名ずつ参加し、ワークショップを通じて社業課題を抽出し、「新たな事業案」を構築する「BCPビジコン」に向かっていきました。



## スポーツを通して国際交流を推進する事業 ～Cross the border with sports～

本事業は2日間に渡り実施しました。

1日目はブラジル、中国、朝鮮韓国の、3カ国の在日外国人のサッカーチームと日本のサッカーチームの合計4カ国のチームにご参加いただきました。現地では自国の言語が飛び交い、まるで海外にいるかのような空気の中オリエンテーションがはじまりました。国別対抗のサッカー大会を行いました。各チームからサッカーに対する熱い想いが感じられるような情熱的なゲームになりました。ゲームが終わると他のチームの子の名前を呼び合ってふざけ合う姿も見かけられました。

2日目は各国の文化を学ぶために学生と共にワークショップを行いました。

各国の文化を知ることでよりお互いを認め合い懇親が深まったと感じました。



## 女性活躍を推進するフォーラム ポストコロナ時代の新しい起業の可能性

本フォーラムは、在名古屋米国領事館と共に日本とアメリカのジェンダーの考え方の違い、そして女性が経済に果たす役割や新しい起業のカタチについてミーガン・ウォード氏をはじめ、日本の女性起業家や大学生の方たちにお話いただきました。

ミーガン氏からはふたりの子をもつ母であり、妻であり、ビジネスオーナーでもあるが

自分の成長をとめるのは自分しかいない。自分の人生は自分のもの、人と比べるのではなく

自分の人生をレンガのように積み上げていって下さい。多くの女性に、自分にとって価値のある人生を送って欲しい!

と来場者へメッセージを送られました。

名古屋青年会議所では、

「男性だから・女性だから」ではなく、「誰もが活躍できる社会」を目指して今後も活動してまいります。



## アニメツーリズムで新たな名古屋の 観光の魅力を発信する事業

外国人をはじめとする観光客に向けて、世界中に人気を誇る日本のアニメ文化をツールとして、名古屋の観光PR動画を制作しました。

名古屋観光専門学校の学生にご協力いただき、学生自身が企画・絵コンテ作成、撮影までを体験し、学生の視点から名古屋の魅力をより多くの方に知ってもらえるようにと、動画を制作しました。

本動画は東海地区を舞台としたアニメ、シキザクラを織り交ぜた動画となっています。



動画制作事業につき YouTube をご確認下さい。

<https://youtu.be/TrNgw8ek1mE>

## NAGOYA MIRAI DESIGN 2022 開催報告

元大阪市長の橋下徹氏、名古屋市長の河村たかし氏をお招きし名古屋の未来を描くNAGOYA MIRAI DESIGN 2022を開催しました。

基調講演では、橋下徹氏より敬老バスの改革を行った経緯や苦労したこと、将来の地域を支える次世代への投資という観点から教育予算を増やしたり現場の改善に取り組んだお話をいただきました。

次世代を担う若者のために、若者自身が政治を変える意識が必要であり、そのためには若者の投票率を向上させることが、とても大切だと訴えられました。

また河村たかし市長には、当青年会議所が本年度行ってきたプロジェクトにおいて作成した提言書をお渡しました。

## いいコミュニティを創造する事業

「元気まつり守山」にて、地域の子供たちに、お菓子や子供たちが持ってきたおもちゃを販売する出店体験を行ってもらいました。売るためにはどうしたら良いか自分たちで考え、ポップの作成や集客の声かけをしたり、自分で値段を決め、売れなければ値下げをしたりと“働く”という経験を通して、社会の仕組みに触れ、考えるきっかけをつくる事業となりました。

当日は64人の子供たちが参加しました。400人以上の集客を子供たちの力で行い、販売してもらいました。



## 名古屋人間力大賞

今年特に注力したのはやりっぱなしじゃない人間力大賞です。

1月から始まり3月末の授賞式で完結ではなく、授賞式後にもエントリー者をフォローして、参加して良かったと思っていただくことが今後のひんやり大賞の繁栄につながると考えました。

実際に事業終了後にエントリー者から感謝のメールをいただいたり、「今後も青年会議所の力になります。これだけやっていただいたからには自分たちができる事を恩返ししたい」と言っていたきました。



まだまだ名古屋のまちには課題が山積しておりますが、行政と連携し、明るい名古屋の未来をつくるために我々は今後も活動してまいります。



# Junior Chamber International NAGOYA 2022

## 賛助・協賛企業の募集について

### ■賛助・協賛について

名古屋青年会議所は70年間に亘り、名古屋のまちを想い、活動してきました。今後、より一層まちや市民の皆様から求められる運動を展開していくためには、単独の活動ではなく、多くの方々から共感を得て、共に活動していくことが大切であると考えています。

そこで、当青年会議所では社会課題の解決に向けて、あらゆるパートナーと連携し、新たな価値、すなわち持続可能なブランドや事業を創造していく取り組みを行っています。青年会議所運動にご賛同いただける企業・団体・個人の方には賛助として、それぞれの事業・例会にご賛同いただける方には協賛としてご支援いただき、協働して運動を展開しています。

賛助いただける利点として、当青年会議所は、600名近い青年経済人である会員から形成されており、経営者層の人間も多く在籍しておりますが、その会員に対して、貴社の活動内容や特色をアピールする機会を設けさせていただきます。また、我々は、地域との協働により、明るい豊かな社会を実現するために活動しております。

広報誌やWEBの活用により、貴社を賛助企業としてPRすることで、より一層のイメージアップを図ることができます。

### ■協賛によってなされた事業

本年度、当会議所は、複数の事業・例会を、外部企業・団体等の協賛金に支えられて実施しました。例えば、7月のスポーツを通して国際交流を推進する例会では、開催するにあたり外部協力者の皆様から多くのご協賛をいただきました。

また、2018年度から続いている、名古屋の観光起点となるアットナゴヤモニュメントにおいては多くの皆様よりご協賛いただき市内に5カ所設置され、本年度は名古屋モード学園の学生たちによって社会課題をテーマにデコレーション事業を開催しました。

### ■賛助・協賛の方法

2022年度（第72年度）では、当青年会議所の目的に賛同し、その活動を援助することによって当青年会議所の発展を助成しようとする企業・団体に対し、ご要望に応じた賛助プランをご用意しています。また、各事業・例会に対してご協賛いただく場合には、担当委員会と共にその内容を定めていただくことになります。詳細につきましては、名古屋青年会議所事務局を通して、JCプランディング委員会までお問い合わせ下さい。

#### お問い合わせ先

公益社団法人名古屋青年会議所

2022年度（第72年度）JCプランディング委員会

メールアドレス:nagoyajc.72jcb@gmail.com

#### 賛助企業

株式会社ミロク情報サービス

東海東京証券株式会社

### マズモッテ定期送付ご希望の方へ

携帯・スマートフォン・パソコンからお申し込み

①QRコードを読み取って下さい→



②「マズモッテ定期送付依頼フォーム」から  
必要事項をご入力下さい。

※QRコードでなく、直接ご入力の際は下記アドレスをご入力下さい。  
[https://www.nagoyajc.or.jp/68nendo/about/mazmotive/main\\_form.php](https://www.nagoyajc.or.jp/68nendo/about/mazmotive/main_form.php)  
※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に従い取り扱います。  
※公益社団法人名古屋青年会議所に関する情報提供以外の目的では利用いたしません。  
※アクセスにはご契約の通信料がかかります。

※QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

### 名古屋の魅力を発信する情報をゲット！

名古屋青年会議所のホームページやSNSでも情報を発信中！

公式YouTube  
チャンネル



公式Facebook



公式Instagram



公式Twitter



公式LINE

